
高校探究科

No. 01 (K3)

年	3	組		番		名前	
---	---	---	--	---	--	----	--

0. 卒業論文の流れ

1. 課題

- ・高校3年間の探究科の授業で身に着けた知識・学びのスキルをもとに卒業論文を書こう
- ・国際社会・日本社会の問題についてSDGSを意識しながら自分でテーマを設定する

2. 卒業論文の説明

- ・作文が自分の考えを中心に記述するのに対し、論文とは自分の問いに対して、客観的な根拠をもとに答えを導き、自分の結論を書くものです。
- ・論文の制作は高校3年生の探究科の時間を1年間使って行います。
- ・目標とする量は Word A4 2枚以上(2880字) です。図や表も使ってください。

3. 卒業論文の手順

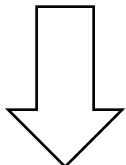
高2 3学期後半	・テーマ(問い)の検討・決定
↓	↓
高3 1学期前半	・テーマについてレジュメ作成・発表
↓	↓
高3 1学期後半	・論文1次原稿制作・完成
↓	↓ ※指導教員による論文チェック・指導
高3 2学期前半	・論文最終原稿制作・完成
↓	↓ ※指導教員による論文チェック・指導
高3 2学期後半	・論文内容についてポスター制作・最終発表会実施
↓	↓
高3 3学期	・論文相互評価・論文集印刷

1. 卒業論文の材料を集めよう

テーマ(問い)に対して答えを見つける論文を制作するには、テーマについての基本的知識(言葉の定義、現状など)と、結論を述べるための客観的根拠(公的機関・学者の意見、数値データ、過去・他国の事例)が大切になります。今回は基本知識や根拠を準備してみましょう。

STEP1 高校2年の時に考えたテーマについて問い(仮説)の形で書きましょう。(変更しても可)

テーマ	(例) 牛乳と身長の関係とは？
-----	-----------------



- | | |
|-------------------|---------------------|
| ①テーマは大きすぎないか？ | ②専門的すぎるテーマではないか？ |
| ③曖昧な言葉ではないか？ | ④予言・予想的なテーマではないか？ |
| ④How to(方法)ではないか？ | ⑤調べたらすぐわかるテーマではないか？ |

STEP2 アドバイスを聞いて、論文を書きやすい問い(仮説)の形に修正しよう。(変更なしでも可)

テーマ	(例) 牛乳を飲むと背は伸びるか？
-----	-------------------

STEP3 自分が予想する問い（仮説）の答え・結論を書こう。

答え予想 (結論)	(例) 牛乳を飲むと背は伸びる
--------------	-----------------

STEP4 仮説が正しいか？結論を導くための証拠・根拠を複数調べよう。その際に出典も書こう。

- ①同じテーマで先に研究した人（先行研究）がないか？調べてみるとよい。
- ②調べる先（出典元）は、公的機関（国際機関・各省庁）、学者など信頼できるページを選択する。
- ③統計など数値データもあると説得力は増す。

根拠①	
	【出典】
根拠②	
	【出典】
根拠③	
	【出典】

- ・根拠を調べるのが難しい場合、問いを少しずらす方法もあります。調べていく中でテーマを変えることはよくあることです。テーマを変更した場合は、二重線で修正してください。
- ・詳しくメモをしておくと、このあと論文を書く時にも役立ちます。

2. レジューメ（発表用の要約メモ）にまとめよう！

【見本】

幼児期の教育や環境で人格は変わるのか？

K3B (00) ○○△△

1. はじめに

- ・疑問「一人一人考え方や性格、好きな物、嫌いな物が違うのはなぜだろう？」
→仮説「6歳までの幼児期の教育、環境が人格形成に影響をあたえるのではないか？」

2. 調査

(1) 性格・人格は後天的に獲得される

- ・人格とは、独立した個人としてのその人の人間性。その人固有の人間としてのありかた。
- ・運動能力や体形は遺伝的影響を多く受けるのに対し、性格や学力は環境の影響を多く受けるとされる

(2) 幼児期の発達の特徴

- ・身近な人や周囲の物、自然などの環境とかかわりを深め、興味・関心の対象を広げ、認識や社会性を発達させていく
- ・食事や排泄、睡眠といった基本的な生活習慣を獲得し、子ども同士で遊ぶことなどを通じ、豊かな想像力をはぐくむ
- ・自らと違う他者の存在や視点に気づき、相手の気持ちになって考えたり、時には葛藤をおぼえたりする中で、自分の感情や意志を表現しながら、協同的な学びを通じ、十分な自己の発揮と他者の受容を経験していく。
- ・体験を通じ、道徳性や社会性の基盤がはぐくまれていく。(子供の徳育に関する懇談会資料)

(2) 幼児期の環境と人格形成に関する先行研究

- ・養育者の育児に関する考え方や「どのような子供に育てたいか」という養育姿勢は、日々の相互作用を通して子供の個性にも影響されて変容していく。(清水)
-

3. 考察

- ・(1) より、人格の要素である性格や行動は後天的に獲得される要素が大きい
- ・(2) より、幼児期は認識や社会性、想像力、他者との関り、社会性の基盤が育まれる時期
- ・(3) の調査より、保護者など養育者の考え方や姿勢は、子供の個性にも影響するといえる

4. 結論

- ・幼児期の教育や環境は人格形成に影響を与えるといえる。
- 考察でのべたように、幼児期が.....という時期であり、養育者の考え方や姿勢が個性にも影響しやすい。自分自身の経験から言っても、親の言葉や関りの影響は大きい。
- しかし人間は成長し続ける存在であるから、以降の教育や環境の影響も大きい。

<参考文献>

○△△△, 2014, 「.....(書名)」○○出版
文部科学省, 2012, 「子どもの徳育の充実に向けた在り方について (報告)」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/053/gaiyou/attach/1286156.htm
(2023.4.18 確認)

タイトルは疑問形にして目的を明確に

はじめにでは、そのテーマを調べようと思った理由・知りたいことを箇条書きで

次に調べたことを書いていく。レジューメでは文章ではなくポイント・見出しを箇条書きで書いていく

小見出しや(1)など番号をふると読みやすく整理できる

参考：数字・データは説得力があるので書いておこう！表を使って整理してもよい

調査したことからわかったことを書く

結論は設定したテーマの答えを書く

最後に調べるのに使った本やWEBサイトは書いておこう。

基本的な書き方の例

Webは確認日も書く